

[施業研究室]合理的施業に関する研究

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

柿原, 道喜
九州大学農学部附属演習林 : 助手

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456096>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和37年度, pp.2-3, 1963. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

施業研究室

合理的施業に関する研究

青木 眞重 柿原 道喜
宮崎 安貞

I. 研究の目的

各地方演習林ごとに、その特色を生かした施業法をあきらかにし、もって演習林経営上の資料とする。

II. 方法

各地方演習林別に次の作業法をとりあげた。

- 1) 北海道演習林 : 掌状作業法
- 2) 宮崎演習林 : 山岳地更新作業法
- 3) 柏屋演習林 : 技打式択伐作業法
: 照査法式間伐作業法
: その他

1)については、北海道演習林経営案説明書に、2)については、一題目として別に報告されているので省略することとし、3)のみについて、その方法を述べれば次のとおりである。

1. 技打式択伐作業法

択伐林における上木の技打を実施して、林内への陽光射入量を増加せしめ、もって下木の成長を促進せしめる集約な択伐作業法である。新建団地ノ4林班は小班は、保育不十分のため直径分配は択伐林の様相を呈していたので試験地としてとりあげた。雑木(広葉樹)の除去、雪害木の伐倒等、林内の整理を行ない、伐跡地にはヒノキを集植(ノ兼当リ3本)して、上木スギ、下木ヒノキの択伐林型を人為的に作り、これを試験林分と

した。

b. 照査法式間伐作業法

間伐毎に、前期間伐からの成長量を調査し、その何割かを間伐する作業法である。また、同時に全立木の品等区分の調査を行なって形質別の成長量をあらかじめ、もつて、形質良好な立木の成長量(生産量)を最大ならしめる間伐方式をあらかじめせんとするものである。新谷田地ノ8村班へ、と小班52年生ヒノキ村を本試験の対称とした。

c. その他

すでに実行中の下記各試験を、本研究の一環として継続調査することとした。これら各試験の方法については別に報告³⁾、²⁾してあるのでこゝでは省略する。

i) 抜打試験

ii) 林地肥培試験

iii) 竹林作業法試験

iv) しぼり丸木生産試験

v) 植栽本数密度試験

III 経 過

抜打式間伐作業法に関する研究

昭和38年8月下旬、試験地の設定を完了した。

照査法式間伐作業法

昭和38年3月下旬に、試験地の設定に着手し、同月中にその大部分を完了した。残りは昭和38年度中に完成せしめる予定である。

その他

各試験地の維持管理ならびに成長量の測定等を実施した。

IV 成 果

抜打試験、竹林の作業法試験については別に発表した³⁾、⁴⁾、⁵⁾

ので省略する。

その他の各試験については、目下継続中であつて成果をみるに
致っていない。

- 1) 研究部 昭和35年度研究経過報告 演習林 /31号
- 2) 研究部 昭和36年度研究経過報告 演習林 /43号
- 3) 青木尊重他 竹林の合理的施業に関する研究第Ⅲ報
日林会九支講集第16号
- 4) 青木尊重他 竹林の合理的施業に関する研究 第Ⅳ報
第13回日林講集
- 5) 柿原道喜 乱塊法によるヒノキの枝打試験 第1報
九大演集 第18号

主要樹種の材積表ならびに収穫表の調製に関する研究

担当者 青木 尊重 柿原道喜

I. 目 的

演習林産の主要樹種の材積表ならびに収穫表を調製し、研究ならびに事業上の基礎資料とする。

II. 方 法

材積表の調製：これまでに演習林ならびに教室関係者によつてなされた樹幹析解木の資料を収集・整理するとともに、今後、研究ならびに実習等にあたつて樹幹析解が行なわれたさいはその資料をとりそろえておき、樹種別に必要な資料数が集まれば調製する。

収穫表の調整：樹種別に調製する予定であるが、現在のところ